

# 自動車リサイクル制度に係る JAIAおよび輸入車インポーターの情報発信

2015年11月24日（火）



日本自動車輸入組合(JAIA)  
Japan Automobile Importers Association

# Contents

---

- 1. JAIAから関係者への情報発信**
- 2. 環境配慮設計の取組みの公表**
- 3. ELV指令に基づく再生資源の利用拡大**
- 4. 参考情報（リサイクル料金の低減）**
- 5. 今後の課題**

# 1. JAIAから関係者への情報発信

## (1) 業界団体としての取組み

### 関連業者へ

解体、リサイクル促進  
の為の情報

### ユーザーへ

リサイクル料金、リサイクル実績、  
3Rの取組み、製品の環境情報

### ディーラーへ

リサイクル料金預託等  
各種実務の情報

輸入車各社及び自動車再資源化  
協力機構（自再協）、ASRチー  
ムを通じて情報提供

- ・エアバッグ類適正処理情報
- ・全部再資源化促進関連情報
- ・駆動用リチウムイオン電池の  
回収スキーム、解体マニュアル

- ・ホームページ掲載
- ・サステナビリティレポート発行

- ・預託実務マニュアル作成

# 1. JAIAから関係者への情報発信

(2) JAIA HPでユーザーへ自動車リサイクル法・制度、リサイクル料金に関する情報を提供

http://www.jaia-jp.org/guid 輸入車のリサイクル | JAIA...

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(I) ヘルプ(H)

## 輸入車のリサイクル

輸入車のリサイクル    リサイクル料金    リサイクル実施状況

### 自動車リサイクル法への対応

2005年1月1日、自動車リサイクル法が本格施行しました。自動車リサイクル法は、近年の最終処分場の逼迫によるシュレッダーダスト(自動車を破砕処理し、金属等の回収した後に残るゴミ)の処理費用の高騰と不安定な鉄スクラップ相場による使用済自動車の不法投棄や不適正処理への懸念、新たな環境問題であるフロン類・エアバッグ類への対応のために2002年7月に制定されました。

自動車リサイクル法は、自動車メーカー・インポーターに対し、自らが製造または輸入したクルマが使用済みとなったときに発生するシュレッダーダスト、フロン類、エアバッグ類について、責任をもってリサイクル(フロン類は破壊)することを義務付けています。

JAIAメンバーである自動車正規インポーター各社は、自動車メーカーとともに自動車リサイクル法における主体的役割を果たすため、リサイクルの確実な実施に取り組んでいます。

自動車リサイクル法の仕組みを知りたい方は、こちら(経済産業省HP)をご覧ください。

### 輸入車のリサイクル料金

自動車リサイクル法では、リサイクルに関わる処理に必要な費用(リサイクル料金)について自動車所有者にお支払いをお願いします。

### JAIA各社のリサイクル料金

JAIAメンバー各社は、各社で取り扱うクルマのリサイクル料金を設定・公表しています。各社が公表しているリサイクル料金については、上記タブ「リサイクル料金」をご覧ください。

http://www.jaia-jp.org/guid 輸入車のリサイクル | JAIA...

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(I) ヘルプ(H)

## リサイクル料金の構成

リサイクル料金は、シュレッダーダスト、フロン類、エアバッグ類を適正に処理するために必要な各料金、情報管理料金、資金管理料金を構成されます。シュレッダーダストの発生見込み量、エアバッグ類の個数や取り外しの容易性、フロン類の充填量などに応じて設定されています。

### リサイクル料金の内訳

シュレッダーダスト料金	フロン類料金	エアバッグ類料金	情報管理料金	資金管理料金
-------------	--------	----------	--------	--------

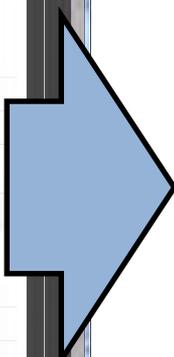
### 支払いタイミング

自動車のリサイクル料金は、「前払い方式」となっています。2005年1月以降に新車で販売されるクルマは、新車購入時にリサイクル料金の支払いが必要となります(旧販車は車検時費用として2002年9月に終了)。

# 1. JAIAから関係者への情報発信

(3) JAIA HP上に輸入車のリサイクル料金及びリサイクル実績のポータルサイトを設置し、輸入車各社の掲載ページを案内

輸入車のリサイクル	リサイクル料金	リサイクル実施状況
インポーター	ブランド	
(株)RTO	ルーフ	
アウディジャパン(株)	アウディ ランボルギーニ	
FCAジャパン(株)	クライスラー ジープ ダッジ フィアット アルファロメオ アバルト	
エルシーアイ(株)	ロータス	
(株)キヤロッセ	プロトン	
ジャガーランドローバージャパン(株)	ジャガー ランドローバー	
スカニアジャパン(株)	スカニア	
ゼネラルモーターズ・ジャパン(株)	オペル キャデラック シボレー(コルベット) ハマー(H3)	
Tesla Motors Japan(株)	テスラ	
ニコル・レーンダング・ジャパン(株)	BMWアルピナ ブガッティ	
ビー・エム・ダブリュー(株)	BMW MINI	
ビー・エヌ・ピー(株)	サブ	
ヒュンダイモーターズジャパン(株)	ヒュンダイ	
フェラーリジャパン(株)	フェラーリ	
フォード・ジャパン・リミテッド	フォード	
フォルクスワーゲン・グループジャパン(株)	フォルクスワーゲン ベントレー	



最新モデルのリサイクル料金

モデル名

- up! リサイクル料金表 (PDF: 167.1kB)
- Folo リサイクル料金表 (PDF: 68.1kB)
- Folo GTI リサイクル料金表 (PDF: 169.0kB)
- The Beetle リサイクル料金表 (PDF: 166.4kB)
- The Beetle Cabriolet (PDF: 67.3kB)
- Golf リサイクル料金表 (PDF: 70.4kB)
- Golf GTI リサイクル料金表 (PDF: 165.0kB)
- Golf GTE リサイ
- Golf R リサイ
- Golf Variant リ
- Golf Alltrack リ
- Golf Touran リ
- Tiguan リサイ
- Sharan リサイ
- Passat リサイ
- Passat Variant
- Volkswagen OC
- Touareg リサイ

シュレッダーダスト等の3品目に関するリサイクル料金 (ユーザー預託金) について

自動車リサイクル法に関するよくあるご質問は自動車リサイクルシステムホームページをご覧ください。

1 自動車ユーザー向けFAQ

2 事業者向けFAQ

2005年1月1日から施行される自動車リサイクル法 (使用済自動車の再資源化等に関する法律) 施行に伴い、同法第10条(自動車)を改正し、破砕した要するシュレッダーダストとエアバッグの再資源化 (リサイクル)、カーエアコンに使用されているフロンガス等の回収に必要となる費用を各車種から別々に発生するリサイクル料金に含めました。

当社は自動車リサイクル法に準じた処理を従来行っていたためのリサイクル費用について調査を行なってまいりました。今回のリサイクル料金はこれらの検討結果を反映したものです。今後、法的な義務に準じて各車種に負担していたコストを効率的に運用し使用済自動車リサイクルを確立してまいります。

リサイクル料金設定にあたっては、お客様からのご意見やご要望に、車種毎での設定を基本とし、3品目 (シュレッダーダスト・エアバッグ・フロンガス) の料金設定の考え方は以下の通りです。1) シュレッダーダスト料金は車種毎のシュレッダーダスト量に比例して設定しました。2) エアバッグ料金はエアバッグ及び、シートベルトプリテンショナー等の装備の有無を考慮して設定しました。3) フロンガス料金はエアコン設備車には一律の料金を設定しました。

車種別リサイクル料金一覧

正知行車、既に車両を所有しているお客様は車種別又は使用済自動車引当金などに、新車を購入されるお客様は購入時に、販売会社や整備業者を通じてリサイクル料金をお支払いください。(注) 自動車リサイクル法発効センターがその料金を徴収して管理いたします。

モデル名	グレード名	型式	リサイクル料金		
			シュレッダーダスト料金 (1)	エアコン料金 (2)	エアバッグ料金 (3)
SAVO	全車	GH-S8NFS	¥7,970	¥2,250	¥4,010
	1.4 VTR	ABA-A63PV	¥8,550	¥2,250	¥4,810
	1.4 VTR	GH-A63Y	¥9,090	¥2,250	¥4,810

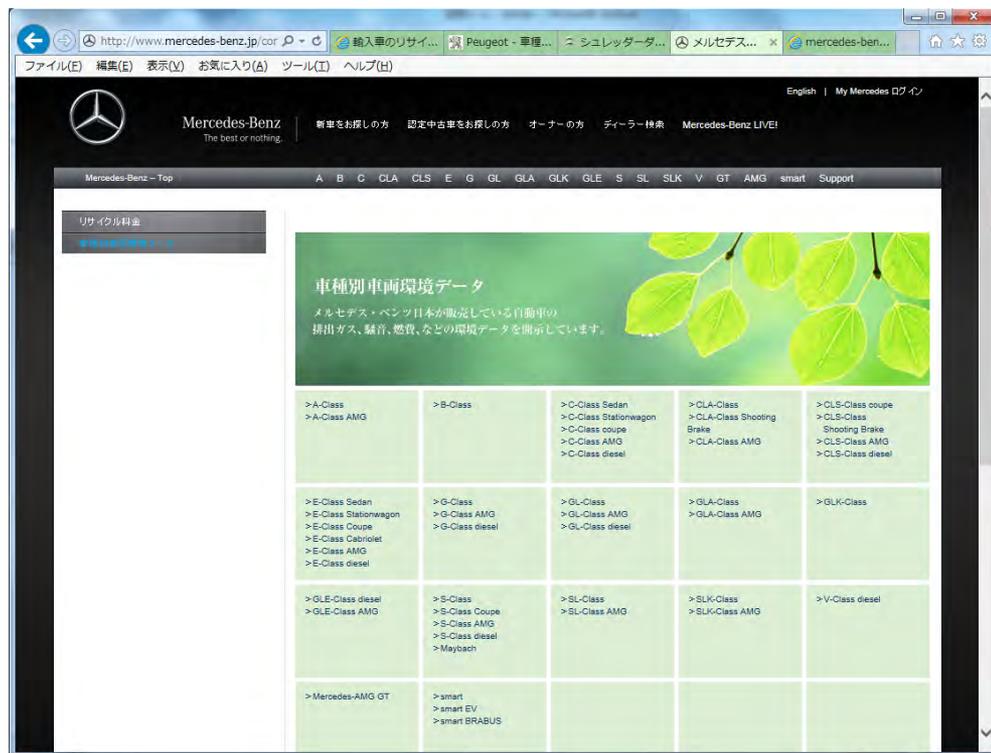
## 2. 環境配慮設計の取組みの公表

### (1) ボルボ・カー・ジャパンの取組み

- 排出ガスレベルの規制値、燃料消費率、CO排出量、騒音性能、冷媒の種類・量やリサイクル設定の有無等を記載した冊子を作成し、ユーザーへ提供。

### (2) メルセデス・ベンツ日本の取組み

- 自社HPの中で各モデルのリサイクル配慮設計等の環境データを公開。



### 【参考】

- BMWは、本社解体工場にて開発段階の車両の解体性試験を行い開発段階で、自社基準において一定の解体性を担保するようにしている。

### 3. ELV指令に基づく再生資源の利用拡大

#### (1) Daimlerの取組み

- 本国サイトで主力モデルの再生原料の使用状況等を公開。
- 再生原料はホイールアーチライニング、アンダーボディパネルなど、主にPP材（ポリプロピレン）からなる部品に使用される。

#### (2) BMWの取組み

- 熱可塑性樹脂の20%程度が再生材を使用し、日常で直接手に触れる部品への採用も始めている。

## 4. 参考情報（リサイクル料金の低減）

### (1) ISO対応エアバッグ

- 解体段階における作業時間の短縮のため、ISO規格一括作動処理ツールに対応したエアバッグの搭載を進めている。
- インポーターによっては、2015年の新車販売台数の8割以上が当該エアバッグ搭載車となっている。

### (2) フロン類の冷媒転換

- 自動車リサイクル法に基づく回収義務のない、HFO-1234yfへの転換を始めている。

## 5. 今後の課題

- 輸入車のインポーターの組織は、販売、マーケティング、アフターセールスの機能は有するが、開発機能は有していないことから、環境配慮設計に係る情報の入手が難しい。従って、環境配慮設計の定義の議論や出される結論の検証も困難になると思われる。
- 環境配慮設計の定義およびそれに基づくリサイクル料金の低減等の施策については、検討の段階からJAIAとしても積極的に参画・貢献する所存である。なお、環境配慮設計の定義作りに際しては、国際動向も踏まえ、シンプルなものを望む。